

2016年12月12日

東京都知事 小池百合子様

知事ご就任以来、都政改革に邁進されている様子をメディアで拝見し、心強く感じております。

私たちは、「むさしの地区外環問題協議会」と申しまして、武蔵野市東部の3コミュニティ協議会（コミュニティセンターの運営母体）のネットワーク事業として外環道路計画に「賛成」、「反対」、「よくわからない」のどなたにもご参加いただき、外環道路について勉強し、話し合い、行政にも意見を述べてまいりました。

ご承知のように、「外環本線」は大深度地下道路として建設が決定し、現在準備工事の段階です。しかし、その地上部に「外環の2」と称する地上部幹線道路計画が存在しており、その事について、知事にご理解を賜りたく、お手紙をしたためました。

外環道路は、1966年に高架式の高速度道路として都市計画決定され、地元の強い反対により、1970年根本建設大臣により「地元と話し得る条件が整うまで強行すべきでない」として、凍結されたまま時間が過ぎ、地元の人たちもほとんど忘れていました。30年近くたって、石原都知事が武蔵野市の現地視察に訪れ、続いて扇千景建設大臣も現地視察する中で、高架で考えられていた外環道を地下にする案が出てきました。その時の石原都知事の「茶の間に土足で踏み込むような」計画はやめて、地下にという発言は新聞・テレビにも大きく取り上げられました。扇大臣も公園に集まった子ども連れのおかあさんたちに「もう安心してください」と言ったのでした。

2001年に国・東京都が発表した「計画のたたき台」では「現計画の自動車専用道路と幹線道路の広域機能を集約して全線地下構造の自動車専用道路とし、地上部は地域の実情や地元の意向に合わせて検討する」として、「住宅・地域コミュニティを維持する場合」を含めて4つの案が提示されました。住民はこのままの生活を維持できると安堵しました。ところが、2005年に東京都が出した「外環の地上部街路についての基本的な考え方」では、道路を造ることが前提の3つの案に変わっていました。

その後、東京都は「外環の地上部街路に関する話し合いの会」を武蔵野市、練馬区、杉並区で始めました。武蔵野市の場合は2009年に「必要性の有無から話し合う」ということで公募で選ばれた10名を含む市民14名と、武蔵野市、東京都、国から2名ずつ、合計20名で「話し合いの会」が発足し、7年間、24回にもなりました。現在は、会は一旦休止し、「中間のまとめ」を作る作業をしているところです。

この間、市民側の構成員全員が「武蔵野市に外環の2は必要ない、外環の2計画を廃止してほしい」と発言してきました。武蔵野市の吉祥寺東町、南町の住民の大多数は「外環の2は必要ない」と思っています。緑豊かな成熟した住宅街を分断し、住民が培ってきたコミュニティを破壊して道路を造ることに賛成する住民がいるはずがないのです。武蔵野市議会も何度か東京都に外環の2に反対する意見書を提出しています。武蔵野市長も「武蔵野市には外環の2は必要ない」と度々、発言しています。住民も市議会も行政も「外環の2」を作ることを望んでいません。

知事にお願ひがあります。ご多忙なのは承知しておりますが、ぜひとも、現地をご覧いただきたいのです。吉祥寺東町・南町の住宅街を歩いていただきたいのです。見事な櫨のそびえる公園、立教女学院・吉祥女子中学高等学校・本宿小学校・櫨の実幼稚園等の文教施設、さらに関東大震災以降にできあがった由緒ある住宅街を歩いていただきたいのです。畑や空き地ではないのです。

5年ごとに行われる都市交通センサスでも自動車交通量の低下がみられるそうです。道路ニーズが低下しているにも関わらず、大深度地下の高速道路の上部に住宅地を壊して自動車道路を造る必要があるのでしょうか。

地元の住民は50年以上前の都市計画道路を、そのまま継続していくこと自体がおかしいと感じています。一度都市計画決定した道路は、住民からの反対があっても必ず造るというならわしを、小池知事から変えていただきたいと思ひます。50年も前の計画をそのまま続けていくことそのものがおかしいと思ひます。10年、20年、30年ごとに都市計画を見直すことの第1歩として、「外環の2」計画を見直すことを、切に願ひっております。

本件に関し、知事のご賢察を期待申し上げます。

むさしの地区外環問題協議会

吉祥寺東コミュニティ協議会 代表 青木一郎

本宿コミュニティ協議会 代表 中村和子

吉祥寺南町コミュニティ協議会 委員長 鬼原憲生

連絡先：武蔵野市吉祥寺南町3-13-1

吉祥寺南町コミュニティセンター

電話：0422-43-6372